

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表  
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満  
たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていた  
だきますので、あらかじめご了承ください。

**1. 学校概要**

学校名 国立大学法人 宮城教育大学  
 種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中等高等学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 その他 ( )

住所 〒 980-0845  
仙台市青葉区荒巻字青葉 149 番地

E-mail : ichinose@staff.miyakyo-u.ac.jp

Website : http://www.miyakyo-u.ac.jp/

児童生徒数：男子      名 女子      名 合計 1525 名  
 児童・生徒の年齢 18 歳～成人全般

**2. 担当者** ※公表しません

**3. 実施活動（複数選択可）**

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

**4. 活動内容**

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

(1) 岩沼市中学生アメリカ・ドーパー訪問事業（協力）

実施日：2013年4月25日、2014年3月13日～31日

場 所：岩沼市・米国ドーバー市

経 費：なし

岩沼市と宮城教育大学の連携事業の中で、附属国際理解教育研究センターが委託を受けて、岩沼市中学生米国派遣事業に協力している。本年度で7回目になる。本学から4名の学生を派遣し、中学生の事前研修および、米国に派遣された際の現地でのサポートをしている。本学の派遣学生の選抜は、留学生部会が担当している。本年度は、2014年3月13日～31日まで実施される。また、終了報告会が毎年岩沼市で4月の下旬に行われている。

#### (2) グリーンウェイブ活動(主催)

実施日：2013年5月22日

場 所：宮城教育大学

経 費：なし

国連生物多様性の日(5月22日)に、宮城県内のユネスコスクール、連携協定締結機関、RCE 仙台広域圏構成団体へ協力を依頼し、植樹活動を実施した。本年度は、約20の機関が本学と連携して、グリーンウェイブ活動に参加した。2014年は、国土緑化推進機構からの要請により、下記の3事業に協力。①グリーンウェイブ2014年キックオフフォーラム(2014年2月28日 東京)、②海岸林再生シンポジウム(2014年3月16日 岩沼市)

#### (3) フィリピンの自然災害と防災教育について(主催)

実施日：2013年6月10日

場 所：宮城教育大学管理棟3F 中会議室

経 費：国際理解教育研究センター経費

フィリピンからキャピタル大学の教育学部長、アモーレ・デ・トレス先生をお招きして、2011年のフィリピンの台風災害、センドンの被害状況とその教育的支援についてお話を伺った。教育復興支援センターのセミナーと合同で、実施した。翌日には気仙沼市のユネスコスクール研修会で、同様の自然災害の講演をしていただいた。25名の参加があった奇しくもその後2013年の12月に台風ハイエンがフィリピンのタクロバンを襲撃し、先見性のある報告会となった。

#### (4) 平成25年度第1回「気仙沼ESD/ユネスコスクール研修会」(共催)

実施日：2013年6月11日

場 所：宮城教育大学管理棟3F 中会議室

経 費：気仙沼市教育委員会経費・国際理解教育研究センター経費

東日本大震災からの教育復興に向けて、気仙沼市内のユネスコスクールを核とするESDの質的向上をめざし、ESDや防災に関する国内外の取組や各校の実践を共有するとともに、専門的見地からの助言をもとに今年度の計画に検討を加え、取組の工夫改善を図る目的で開催された。

「2014年以降を見据えたESDと教育の質の向上に向けた取組」として本学国際理解教育研究センター 教授 市瀬から講演があり、その後「フィリピンの自然災害と防災教育」についてフィリピン キャピタル大学 教育学部長 アモーレ・デレス 女史より講演があった。その後3つの分科会にわかれて、討論を行った。参加者は70余名。

#### (5) 気仙沼市教育委員会 気仙沼ESD/RCE推進委員会主催 宮城教育大学共催「気仙沼ESD/RCE円卓会議」(協力)

日 時：2013年10月25日

場 所：気仙沼市立面瀬小学校

経 費：気仙沼市教育委員会経費

① 気仙沼市が、これまで取り組んできたESDの意義を再評価し、東日本大震災からの復興に向けた教育の推進を図る。② 震災復興やESDの推進で、今後、重視される「防災教育」や「復興教育」の推進に向けてESDが果たす機能や役割を検討し、その方向性を共有する。③ 大震災により被災した気仙沼市の「多様な主体の参画と協働によるESDネット

ワーク」を再構築し、地域及び教育の復興への体制を再構築する目的で開催された。午前中は、『ESD 授業研究会』が面瀬小学校であり、午後は、面瀬小学校体育館にて、「2014 年を越えた ESD の方向性と震災復興における ESD の貢献」というタイトルで、文部科学省 国際統括官（日本ユネスコ国内委員会事務総長）加藤 重治様の講演がおこなわれ、120 名前後の参加者があった。

（6）宮城教育大学主催「日本／ユネスコ パートナーシップ事業 2012 年  
第 2 回ユネスコスクール東北大会／第 3 回ユネスコスクール宮城県大会」（主催）

実施日：2013 年 10 月 30 日

場 所：宮城教育大学 210 番教室他

経 費：日本／ユネスコ・パートナーシップ経費

加盟申請から 5 年以上経過した宮城県において、ユネスコスクールの理念を継承していくため、また宮城県以外の地域でのユネスコスクールへの理解を深めるため、「2012 年 第 2 回ユネスコスクール東北大会／第 3 回ユネスコスクール宮城県大会」が仙台市福祉プラザにおいて開催された。午前の部では、文部科学省 国際統括官補佐本村宏明氏による「ユネスコスクールの現状について」、また岡山 ESD 世界大会推進局の中島陽子氏から来年度の世界大会の案内があった。会場を換えておこなった、仙台市立南吉成中学校の生徒の実践発表があり、中学生の震災復興への取組みが参加者の感動を生んだ。午後の部では「地球的課題・国際連携」「持続可能な循環型社会」「地域遺産・文化多様性」の 3 分科会に分かれ、それぞれの分科会では、実践の発表が行われた。今回は、宮城教育大学・東北地区ユネスコスクール実践大賞」が設置され、気仙沼市立馬籠小学校が、実践大賞を受賞された。宮城県から四国地域まで全国から約 70 名の教員の参加があった。

（7）外国人児童のためのリライト教材講演会（主催）

実施日：2013 年 12 月 3 日 16：20～18：20

場 所：宮城教育大学 631 教室

経 費：国際理解教育研究センター経費

「外国人子ども日本語サポートの会」の代表 田所希衣子氏を講師に招き、リライト教材の概要や目的、作成上の注意とポイント、利用方法などについて、ワークショップ形式の講義をしていただいた。講義では、教員と学部学生 30 名が、小学校 3 年生の教科書の教材をもとにしたリライト教材を作成しながら、リライト教材への理解を深めた。

（8）「RICE プロジェクト アジア地域のユネスコスクールの学校間交流」（主催）

実施日：2013 年 11 月 30 日

場 所：多摩川大学

経 費：日本／ユネスコ・パートナーシップ経費

アジア諸国に共通する「お米」を題材とし、アジア地域のユネスコスクール間の交流を図る事業で、この事業が実施してきた、国内 3 地域 5、国外 2 カ国 3 地域 3 校の成果を発表するとともに、今後の学校間交流について話し合った。50 名が参加した。

（9）第 5 回ユネスコスクール全国大会（参加）

実施日：2013 年 12 月 1 日

場 所：多摩センター

経 費：日本／ユネスコ・パートナーシップ経費

多摩永山情報センターにおいて開催された第 5 回ユネスコスクール全国大会（主催：文部科学省 日本ユネスコ国内委員会）に参加した。大会テーマは「ESD のさらなる発展をめざして、2014 年ユネスコスクール世界大会を見据えて」、主な内容は、テーマ別交流研修会、研究授業、シンポジウム、展示、情報交換会であった。全国大会に先立って、11 月 30 日には、国際理解教育研究センターでも実践を支援している「RICE プロジェクト」について成果発表があり、タイと韓国から実践者を行って情報交換をおこなった。

（10）環境フォーラムせんだい 2013（共催）

実施日：2013年12月1日

場 所：せんだいメディアテーク

経 費：仙台市環境局経費

RCE 仙台広域圏の構成団体である FEEL Sendai (=仙台市環境局) の主催のもと、県内の NPO や企業も参加して、環境啓発イベントを開催した。「四ツ谷用水」や「いぐね」など、仙台一杜の都一をつくった自然・まちの文化、すぐに役立つエコ診断・エコアイテムの紹介など、環境に関するさまざまな取り組みが紹介された。RCE 仙台広域圏としてブースを出展、フォーラムで1100名の参加があった。

(11) 宮教大防災 WEEK (主催)

実施日：2014年1月21日～25日

場 所：AER1階 アトリウム

経 費：学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業経費

教育復興支援センターは、受託している「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」の一環として、被災地の「復興」について、さまざまな角度から考える機会となるよう、1週間の防災連続講座「AERで学ぼう-宮教大防災 Week-」を開催した。RCE 仙台広域圏が「被災地からの報告」というタイトルの講義を出講した。会期中は2000名の参加者があった。

(12) 気仙沼市教育委員会 気仙沼 ESD/RCE 推進委員会主催 「平成25年度 第2回気仙沼 ESD/ユネスコスクール研修会」(協力)

実施日：2014年1月24日

場 所：気仙沼市教育委員会大ホール

経 費：気仙沼市教育委員会

東日本大震災からの復興過程の中での気仙沼市内のユネスコスクールを核とする ESD の質的向上をめざし、ESDに関する研究や他のユネスコスクールの取組を踏まえながら、各校の今年度の実践を共有するとともに、専門的見地から評価・検討を加え、次年度に向けて取組の工夫改善を図る目的で開催された。「自然から学び、科学的に考え、持続可能な社会の構築を考える」というタイトルで東京大学大学院教育学研究科海洋アライアンス海洋教育促進研究センター日置 光久氏から講演があったのち「防災・エネルギー」「国際理解・地域文化遺産」「食育・福祉・地域」の3つの分科会にわかれて今年度の実践の成果発表が行われた。気仙沼市立小中学校・幼稚園教員、県立高等学校教員など70名が参加した。

(13) OECD・JAPAN セミナー (主催)

実施日：2014年2月6日

場 所：仙台国際センター

主催：文部科学省、OECD、宮城教育大学

後援：宮城県教育委員会、仙台市教育委員会

OECD では21世紀の社会で必要とされる能力と、子供たちがそれを身につけるための教育について、様々な取組を行っている。第16回 OECD/Japan セミナーでは、「キーコンピテンシー/21世紀スキル」に焦点をあて、OECD 生徒の学習到達度調査 (PISA) 2012 の結果を踏まえた分析や、宮城教育大学における持続可能な開発のための教育 (ESD) に関する活動、福島大学が OECD の協力を得て進めている復興教育の試みの紹介を通じ、OECD の最新の分析と教育現場での実践の両面から議論が行われた。参加者は200名

